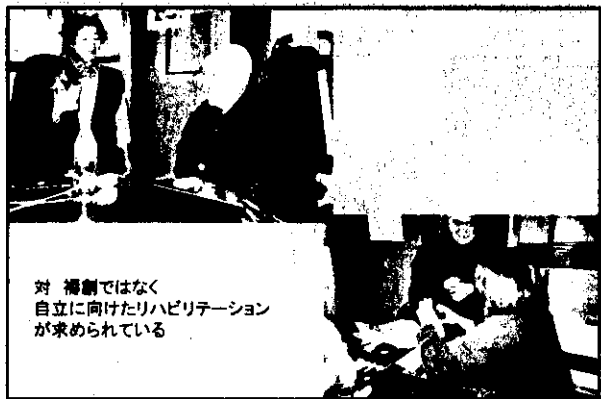


1. 備酒委員プレゼンテーション資料



対 播劇ではなく
自立に向けたリハビリテーション
が求められている

疾病に対する
あるいは障害に対するリハビリテーションから
自立支援に向けたリハビリテーションへ
というパラダイムシフトが求められている。

↓

高齢者に対するリハビリテーションは
cureの現場のみでなく、
careの現場での具体性が求められている

careの現場で
高齢者リハに求められるもの

ADLの自立

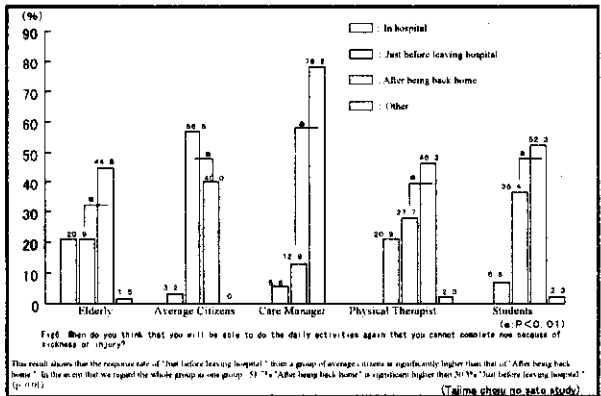
Table 4
The survey into the change of the degree of independence
in ADL of the disabled elderly

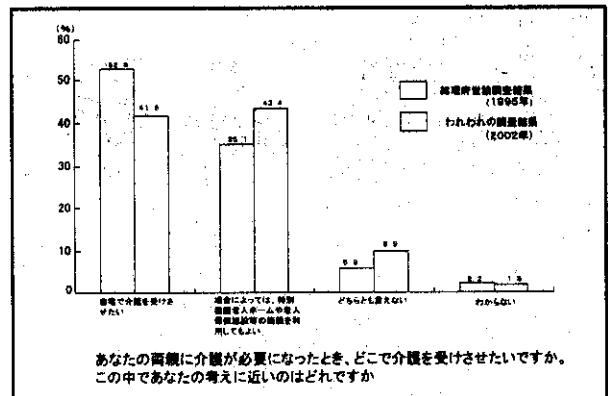
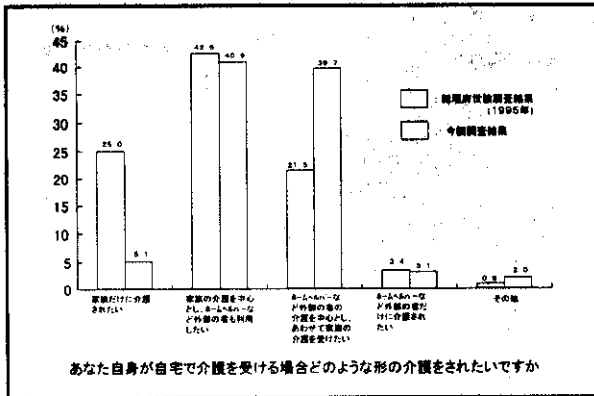
At the conclusion of the survey, the improved group consisted of 88 persons (25.7%) and the worsening group consisted of 40 persons (11.7%). A significant difference between them was observed (p < 0.01), but there was no significant difference between the groups as regards composition of males and females and evaluation period.

	Improved	Worsening	No changed
Numbers of subject	88 (25.7%)	40 (11.7%)	215 (62.7%)
Average age	76.2 ± 12.5	77.6 ± 12.4	76.5 ± 13.3
Average number of visit	3.1 ± 1.3	3.1 ± 1.4	3.1 ± 1.4
Average evaluation period	175.1 ± 140.1	229.9 ± 167.9	229.9 ± 167.9

(a: P < 0.01 b: NS)

(Tajima chiou no sato study)





ADL自立支援に向けたリハビリテーションに欠けているものとその対策

サービス提供側の「人の暮らしや嗜好に対する認識」
→ 思い込みから離れた現実認識

ADLの向上に関する技術性
→ 疾病のみではなく障害像ごとのガイドラインの確立

チームワーク
→ 法・制度、事業、機関、職種、個人
各レベルでのチームワークの具体的な確立

これらのことにリーダーシップを発揮できる機関の小さなマトリックスごとの配置(例えば 保健センター)

